第６回「こどもたちへの環境学習を進めるWG」要旨

日　　時：　平成30年12月３日（月）13：30～15：00

場　　所：　高知県香美農林合同庁舎１F　大会議室

参加者数：　15名

１　今までのWGの取組状況の共有

事務局より、資料１、参考資料１、参考資料２に基づき、今までのWGの取組状況を報告し、関係者と共有した。

【意見なし】

２　流域で環境学習会を実施するうえでの課題共有（関係者からの情報提供）

事務局より、資料２に基づき、関係者に実施した「環境学習調査」取りまとめ結果を報告し、実施するうえでの課題を共有した。

【主な意見】

○屋外では、ライフジャケットの正しい着用方法の周知も必要

○先生や管理職の意欲に左右され、人事異動で継続性が確保されない場合がある。

○環境学習は、総合学習だけでなく、社会、理科、生活、英語などの授業で「環境」を意識しても取り入れることができる。各教科での実施の可否は、学校判断。
環境に結びつけることができると先生が気づいていないのではないか。
（例）スポーツごみ拾いとしての環境学習を道徳で実施
（例）環境問題を取り扱った英字新聞の翻訳を英語で実施

○物部川の河川環境（濁水や代替場所）では、屋外学習をしたくてもできない。濁っている状態を見る現状の学習や他河川から実物を見せて学習している状況。子どもに本物を見せることも大切。

○大規模校は準備や移動に時間が必要。また、延期日や移動手段の確保に課題が多い。

○学習するうえで、新たな課題などが出た場合は、教育委員会ではなく、講師と協議するすることが多い。県が設置している環境学習支援センターの活用も学校によって異なる。

○行政機関は、人事異動もあり環境学習の専門家ではないことが多いため、どのように学習指導要領とつなげればいいか分からない状況。

○環境学習＝学校に限定するのではなく、幅広く実施してもいいのではないか。環境保全の意識がこれからの時代に必要なものであると伝える必要がある。

３　課題に対する対応の協議（関係者ワークショップ）

課題の共有で出た意見、環境学習調査結果や今までのWGで作成した環境学習支援ツールを参考に、物部川清流保全推進協議会としてどのように取り組むか協議した。

【ワークショップ要旨】

○意識の高い学校、低い学校があるが、やり方は決めずに、さまざまな手を使って進める。

○先生を対象とした研修会は、長期休みになるが、既に多くの研修が組まれているため参会者が見込めない。仁淀川でも教育委員会にお願いしたが、参加者がいない状況であることから、子ども向けに安全教室を開催し、先生に必要性を感じてもらう方向に変更している状況。学校側のニーズを把握しつつ、実施は今後の課題とする。

○第一は、学校の先生に相談先を知ってもらうことが必要であることから、事例集の形式ではなく、分野と相談先のリストを作成し、学校に周知する方法を取り、多くの学校に呼びかけていく。

○意識の低い学校は、高い学校の取組を見せることで、実施できる学校を増やす。

ワークショップで協議した内容を物部川清流保全推進協議会の今後の方針として、幹事会に報告し、相談先リストを作成する。